

予算決算審査委員会 総務産業分科会報告書

平成27年6月9日

備前市議会議長 田 口 健 作 殿

総務産業分科会
主査 田 原 隆 雄

平成27年6月9日に分科会を開催し、次の議案を審査したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	備 考
議案第82号 平成27年度備前市一般会計補正予算(第1号)中、総務産業分科会所管部分のうち、市長室・総合政策部関係の審査	—
報告第8号 専決処分(専決第12号 平成26年度備前市一般会計補正予算(第10号))の承認を求めることについて中、総務産業分科会所管部分のうち、市長室・総合政策部関係の審査	—

《 分科会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
議案第82号の審査	2
報告第8号の審査	10
閉会	13

予算決算審査委員会 総務産業分科会記録

招集日時	平成27年6月9日（火）	総務産業委員会休憩中		
開議・閉議	午前9時58分	開会　～	午前11時15分	閉会
場所・形態	委員会室A・B	会期中(第3回定例会)の開催		
出席委員	主査	田原隆雄	副主査	川崎輝通
	委員	山本恒道		尾川直行
		掛谷　繁		西上徳一
		山本　成		
欠席委員	なし			
遅参委員	なし			
早退委員	山本恒道			
列席者等	議長	田口健作		
	参考人	なし		
説明員	市長室長	有吉隆之	秘書広報課長	藤田政宣
	危機管理課長	大岩伸喜		
	総合政策部長	藤原一徳	企画課長	佐藤行弘
	総務課長	高橋清隆	財政課長	河井健治
	契約管財課長	尾野田瑞穂		
	日生総合支所長	星尾靖行	吉永総合支所長	山台智子
傍聴者	議員	守井秀龍	立川　茂	石原和人
		森本洋子	星野和也	
	報道関係	なし		
	一般傍聴	なし		
審査記録	次のとおり			

午前9時58分 開会

○**田原主査** ただいまの御出席は全員であります。定足数に達しておりますので、ただいまから予算決算審査委員会の総務産業分科会を開会いたします。

まず、議案第82号平成27年度備前市一般会計補正予算（第1号）中、総務産業分科会所管分のうち、市長室、総合政策部関係から審査に入りたいと思います。

***** 議案第82号の審査 *****

10ページから13ページ、歳入の部、国庫支出金、県支出金、寄附金、繰入金、市債で何かありますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

特段ないようですので、歳出に入ります。

14ページから15ページ、総務費です。

○**尾川委員** 15ページのふるさと納税寄附金増加による事務費と返礼品、時間外が27万2千1,000円、何人で時間外をどのくらいしていこうとしているのか。それから、役務費の通信運搬費、ふるさと納税の関連について。

○**佐藤企画課長** 時間外勤務手当については、当課企画係では時間外勤務手当の対象者は3人います。3人が月40時間、12カ月時間外勤務をしたらということで積算しています。

役務費のうち通信運搬費は、ふるさと納税に係る寄附の申込書や採納証明書等の郵送料、これを月に2,000件、82円掛ける2,000件掛ける12カ月ということで積算しています。

手数料ですが、ふるさと納税の寄附金収納に係る郵便振替の手数料が1件30円で、年間2,500件ほどあるということで30円掛ける2,500件、これにクレジットカードでヤフー公金決済というものを使っており、この手数料が寄附額の1%に消費税を掛けたものということです。先ほどの郵便振替が7万5,000円、クレジットカードが237万6,000円となっており、合計が245万1,000円となっています。

○**尾川委員** 細かい話ですが、3人の企画係は臨時雇いですから、結局20日としたら1日2時間ぐらいの時間でこなせるわけですか。

○**佐藤企画課長** この3人は正職員です。現実の対応としては、1日2時間では終わっていないという状況です。

○**尾川委員** サービス残業、要らん話じゃけど、2時間じゃ少ないかなとちょっと気になったわけです。監督署に叱られないようにしてください。

○**佐藤企画課長** サービス残業ということは考えられませんので、そのようなことのないように心がけてまいります。

○**尾川委員** ふるさと納税に関連して、市内の人がよそへふるさと納税をするケースがあるんですね。この間もいろいろ議論があったのは、備前市内の人が備前市へどうこうという話だったと思いますが、その辺のデータというのは把握できると思いますが、把握していますか。

○**佐藤企画課長** 市内の方が寄附した額が翌年度に住民税の課税をした段階で寄附金控除の額が

どれぐらい出るかというところで把握はできますが、現在進行形の寄附の状況については把握ができません。

○尾川委員 どこもやりやええいうてやっていますが、皆さん方は違うかも知れませんが、私らの知識は、要するに市外の、ふるさと納税をすると、備前市が負担するようになるという理解をしています。だから、その辺よく相殺をしないと、何かようけえもろうた、ようけえもろうた、ぬか喜びしよったら、ほかで漏れていたということのないように、やはりそういうデータも出してほしいと思います。実際はこうですよ。だけど、こうこうこうなるんですよと、免税しているのがこんなにありますということをやはりみんなに知らせて事実を伝えていくという努力をしてもらいたいと思います。

○佐藤企画課長 もうしばらくすると、平成27年度の住民税の課税状況も明らかになってくると思いますので、その段階で備前市民の方が寄附をしたことによってどれだけ住民税が減額になったかということがわかりますので、今ここでは申し上げられませんが、わかりましたらお伝えしたいと思います。

○田原主査 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次は、20ページ、21ページの消防費で。

○尾川委員 この間、同僚議員が一般質問されていましたが、国の補助が出るからということと動いていると思いますが、一般質問の答弁で明確な説明はなかったわけですが、もう少し費用全体を落とすということは、入札残が出てくるからというぐらいな感覚ではなく、設備の投資について、設備のあり方をもっと、その辺の考えというのはないわけですか。

○大岩危機管理課長 費用の面ですが、東備消防組合の鉄塔が使えれば一番費用の面が減額できるわけですが、今の段階で鉄塔の共架ができるのが熊山中継所で、東備消防の鉄塔に共架することで費用の減額を図っています。

○掛谷委員 使用料及び賃借料399万円、施設使用料はどういうものでしょうか。

○大岩危機管理課長 福石の中継所を工事するときに、NTTの道路、約2.25キロあるわけですが、これを使用するときに、1日1往復90回で試算したときに、NTT側から出てきている数字です。今現在交渉中です。

○掛谷委員 道路使用料ということは、これは毎年要るわけですか。

○大岩危機管理課長 工事期間中の1日1往復90回で今試算しています。

○掛谷委員 工事中ということは、これきりで終わりということでもいいわけですね。

○大岩危機管理課長 その後、年間補修、点検で、1年間で8回程度使った場合に一応今聞いているのが100万円ということで聞いています。

○山本（恒）委員 さっきの7億円の関連ですけど、やはり市役所は割とわかりにくいと思う業者やこ、そりゃもうぶっかけの井勘定みたいな順番で来るような無線じゃから、よう精査してもらって、金額が大きい、でええ大きいから。

○大岩危機管理課長 工事費7億円、かなり大きな事業となっております。できるだけ実施設計段階から減額するような設計書にしたいと考えています。

○山本（恒）委員 同じ話ですけど、もう金額が大きいから1割いうても、こりゃ何でもできるような予算ですからね。ようそこら周り精査してもろうて、後で維持管理が少々高くなっても、初めにようたたいとかなんだらいけんわ。流行ですぐ下がってくるんじゃないもん、こんなものは。それで、1番にしてから、うちはまだ3年ぐらい使えるやつを前倒ししていきよんじゃから、その間のロスというたら、これになったらこれにきちっと、そうしよったら国から補助が来んと言いよったけれど、そこらよう考えてくれなんだら、かさが余り大き過ぎらあ。ここら周りの30万円じゃ8万円というてから、こまい話じゃねえから。そりゃよろしくお願ひしますよ。

○大岩危機管理課長 御意見として承っておきます。

○川崎副主査 前委員会で論議になったのかどうか記憶にないですが、改めてこういう7億円近い施設ができるということで、この必要性という点で現行と何が違うのか、現行では特別な災害で停電になったら一切連絡がとれなくなるわけですか。ところが、この7億円の施設をつくれれば、停電だろうが何だろうがこの無線連絡というのはできる施設というふうに理解したらよろしいでしょうか。

○大岩危機管理課長 無線機器自体は昭和60年初期につくってござりまして、メンテナンス、老朽化で部品がなかなか調達できないような状態になっています。あと、アナログ方式のため総務省の免許の更新があるわけですが、今アナログからデジタル方式ということで、アナログの免許の更新が34年で切れるということで、そのために今無線の整備計画をしているところです。

あと、補助金をいただけるのが28年度までということで伺っていますので、東備消防組合の補助金と和気町と連動して一体で整備しているところでございます。あと合併特例債の期限がたしか31年度でしたか、その期間までに整備を終わらせたいということで考えています。

○川崎副主査 基本的な質問に答えていただけていないのですが、停電で、福島というか東北並みになったときにでも、この無線体系は使えるのかどうかということが一点と、現行施設はアナログで古くなったということですが、その現行施設は参考までにどれぐらいの、新規の設備投資のときの金額というのがわかれば教えていただきたい。それと比較してデジタルは高くなったのか、安くなっているのか、ちょっと判断の材料に使いたいということです。

○大岩危機管理課長 1点目の電源喪失のときですが、一応鉄塔関係のところには自家発電をつけるようにしています。それから、半固定につきましても、24時間程度の電源があります。それから、ハンディもバッテリーと電池、電池があれば交換できて使えるということで、一応停電には対応できるような考えでござります。

○川崎副主査 金額のこと言われてないですけど。

○大岩危機管理課長 失礼しました。アナログ方式の日生、吉永、備前の事業費については、今資料がございませんので、わかりません。

○川崎副主査 調べていただくということと、鉄塔は自動的に自家発電に変わるということです

が、そしたら基本的にバッテリーと自動的に停電を察知してバッテリーにかわって自家発電のエンジンがかかるのか、それともともと今進んでいるリチウム電池の相当大きなものが入っているのかなとか思ったりしますが、そういう設備内部の、7億円もかけるわけですから、ちゃんと完璧に、想定外でしたという言葉だけは聞きたくないという意味で質問しております。と同時に、立派な設備だという説明をいただけるなら、それはどのぐらいの回数で点検をやるうとしているのか、全国でやっているところの前例でわかれば説明をお願いしたい。

○大岩危機管理課長 点検回数については、今うちのほうは一応2年に1遍しております。1年に1遍もありますが、例えば、瀬戸内市は年間の保守点検料が400万円という金額で伺っていますので、その辺も考えながら保守点検の期間は考えていきたいと考えています。

○川崎副主査 システムの中身。蓄電池なのか、蓄電池で始動する、自動車というエンジンをかけるための、セルモーターを回す程度の蓄電池なのか、それとも純粹にエンジンではなく、蓄電池が置かれているのか。

○大岩危機管理課長 中継局につきましては、局舎がありまして、油庫、油を入れていまして、72時間程度、通信の回数にもよりますが、油がある限り通信ができるというシステムです。

○川崎副主査 エンジンをかけるための蓄電池もちゃんとあつてやるにしても、ちょっと心配なのは、1年とか2年に1回ということになったら、肝心なときにそりゃあ、新規で投入したときには3年ぐらいは我々の車でも常識的にかえることはないですよ。けど、1年に1回とか2年に1回程度しか実際に動かないようなものは、日常的にバッテリーが5割とか4割になったら、自動的に普通の電源からバッテリーを充電する装置がついているのかどうかわかりませんが、そういうことも含めて、バッテリーとエンジンの管理というのはどういう感じかなと。7億円ですから相当立派なものがついているのかという期待感を含めての質問です。

○大岩危機管理課長 停電のときには、機械がとまることのないようなことは全て考えている機器でございます。

○川崎副主査 いや、バッテリーの充電は自動的に行われるのかどうか、点検が1年に1回では不安ですという質問です。

○大岩危機管理課長 自動的に行えるものです。

○田原主査 大岩課長、私今一生懸命見よんですけど、5月7日の報告のときに補正で上げたいということで、この資料はもらったわけですが、この件について何かこのほかに資料をいただいていますか。

○大岩危機管理課長 口頭ではこういった事業はするとは申し上げましたが、資料については5月7日の委員会報告の資料だけです。

○田原主査 ちょっと休憩します。

午前10時21分 休憩

午前10時38分 再開

○田原主査 再開します。

○大岩危機管理課長 資料ですが、補助申請とかいろいろありますけれども、数字の精査がちょっとできていないため、本委員会までに提出させていただいてよろしいでしょうか。

○田原主査 仕方ないですね。

それでは、消費税を終わらしまして、次は、24、25ページ、教育費、社会教育費、文化財保護費で。

○山本（恒）委員 消耗品費106万3,000円、横断幕とか懸垂幕と思いますが、どここへ上げたりするんですか。

○藤田秘書広報課長 旧閑谷学校の経費の内容ですが、立て看板については案内用ですから、道路沿道に案内看板用に上げたいと思っています。横断幕ですとJRの駅周辺、駅舎等に上げていきたいと思っています。

○山本（恒）委員 伊部の駅前とかありますが、目立つところでいったら、片上とか和気駅とかあるでしょうけど、そこら周りほどこら周りを考えていますか。

○藤田秘書広報課長 市内のJRの駅というふうに考えています。

○山本（恒）委員 ほんなら、市内の駅全体にということですか、そうじゃないんですか。乗降客の多いよく人目のつく、国道2号とかといたりするようなのは。

○藤田秘書広報課長 設置可能なところを今考えておりまして、市内の駅、ほかにものぼり等もこの中に入っています。これについては、公共施設、駅、サービスエリア等で考えています。

○尾川委員 関連ですが、商工会議所はしおりにをつくるといって新聞でよく見かけますが、備前市からあれに補助は出していないのか。知つとるどんなもんか。あんたらもろうとるんじゃねえん、しおり。知らんのん。新聞に出とったが。そんなのは全然連携もせんし、商工会議所は商工会議所、備前市は備前市でやるん。

○藤田秘書広報課長 その件につきましては、別でやつとるということでありまして。

○尾川委員 やれ言いよんじゃないけれど、顕彰保存会もしかり、商工会議所もしかりですけど、そういう活動をしているところともう少し連携して、どういう会合になって、今日本遺産か世界遺産か、そういう保存会の連携というのをやはりやって、予算もとりながらお互いに協力していくというスタンスを、なかなか市長はしないのかもわからんけど、担当者レベルだったら、そのくらい配慮して動くぐらいの力量を持てばいいと思う、どんなですか、その辺は。そういう考え、発想は出てこないのかなと思います。

○藤田秘書広報課長 世界遺産でももちろん商工会議所の会頭とも連携しておりますし、日本遺産についてもそういった動きで連携はとっていると思います。

○尾川委員 これは第1号というてよそと一緒になつとるけど、市民はこのチャンスを生かせと言われよるよ。あんたらもよう知つとる、100ほどつくるといふことになつとるらしい。日経BP社から西日本の日本遺産をめぐる本が出とる。それが12月に発行されとんよ。その中に閑谷学校が出とるわけです。ということは、かなりそういう確率としては高かつたんじゃねえかな、あんたらどこまで情報を持っていたのか知りませんが、東京におる人は、早う情報を握つと

んかどうかわらんけど、図書館に行ったらその本があるよ。わしゃ見て、ありゃもうこれは決まっとんじやなと思うた、日本遺産どうのこうの。ちょっとタイトル変えとらあ。日本遺産巡礼西日本30選というやつに閑谷学校が出とる。この辺だとどこか忘れたけど、日経BP社。それに出とったんよ。12月に発行されとる。そんな中で、やはりこういうときにチャンスで、それこそ一番へ行かにゃいけんところなわけです。早くそういう手を打って、横断幕もええんですけど、そりゃ岡山駅でもつけさせてもらやあ、赤穂線のホームぐらいにつけさせてもらうような発想をするとか、このチャンスを生かして岡山市で1件目でしょう、まだ、たしか。そういうのを後から二番煎じになったら、余り目立たないし、それともう一つ、そういうことをやっていくことと、それから日本遺産はロゴマークというのがあるはずです。それを名刺に使うとか、あるいはバッジをつくるとか、金も要るけど、そういうものを作ってPRして市の職員も、商工会議所じゃ、閑谷学校の顕彰保存会という区分なしに、もっと積極的にこういう時期を生かしていくという、本でも大した本でないと思うよ、たしか1,500円から1,600円出せば、そんなんでも買って配るぐらい行きゃあよろしいが、図書券配るぐらいじゃから、市民に。極端な話ばかりするけど。そういうチャンス、今チャンスだと思えばざっと行くという、商機じゃから、攻めるときには攻めていかなんたらおえんと思います、その辺どなんですか、有吉室長。

○有吉市長室長 閑谷学校について、かなり有力だということはお聞きしていましたが、先になかなか動けなかったのが、予算計上がちょっとおくれた形にはなっています。閑谷学校だけではないですが、今ちょうど日生の橋もできました。それから、美術館のことも今審議していただきよりも、いろんなことが観光的な面ですけれども、新しい施設ですとか、それから施設は変わっていませんが位置づけが変わるとか、そういったことで今かなり大きく動いています。議員御承知と思いますが、地方創生等につきましてもそういったことで、例えば市内観光全部回るようなこととか、例えば案内板のこととか、いろんなことを今提示等しておるところなので、多少遅くはなっていますが、いろんなことをコラボといいますか、他施設とも連携してやっていきたいと考えておりますので、しばらくお待ちいただきたいと思ひます。

会議所等につきましては、商工関係等もありますので、市の中でもよく調整していきたいと思ひます。

○尾川委員 山陽新聞の社説に閑谷学校が出ているのを読まれたと思うけど、これは要するに、前に津田永忠のことも連携というたりすることも考えていました。橋もええけど、世界遺産を狙っていくのなら、これ一つのステップとしたら、もうここで諦めるならええんじやけど、まあ日本遺産で我慢せえと言われているのかどうかわかりませんが、本当可能性とすれば、こういうステップとして考えたら、津田永忠のほうの、特に両備バスの上の人が言われるようなところに連携するとか、山陽新聞も書いてますから、ここへ。そういうことをこの機会に早目にやって、オリンピックまでに100というんですが、恐らくもう年内に100まで持ってくと思うよ。今88だったか、そしたらもうどこでもあるから。あと数知れとるけど、岡山市内で備前市が何で早くなったのかというのはよくわからん、平成の世界遺産活動をしているからとは思ひますが、

そういう面でやはりチャンスと見て生かしていくということをやってほしいと思いますが、予算に絡めて余り関連ないことを随分言いよったら叱られるので、そういう予算組みをしてもっと有効にこの機会を生かすことを考えてほしいわけですが、どうでしょうか。

○有吉市長室長 大きい流れですけども、一応世界遺産活動、委員御承知と思いますが、従来からいろいろ研究等やってきています。そういった成果が、書籍等でまとめたもの、そういったものが日本遺産についても大変役に立ったというふうに考えています。

山陽新聞のその記事はちょっと私は見ていませんが、津田永忠についてはちょっと前、世界遺産のときには枠組みとしてはだめだということもありました。世界遺産につきましては、この間新聞等で報道されたと思いますが、水戸市外、4市で連携をしていくということになっています。日本遺産につきましても国からの補助金をいただいて共同事業等もやる、これから将来ですが、やる予定にもしておりますので、そういった流れで行こうと思いますので、御理解いただきたいと思います。

○尾川委員 私は、世界遺産の津田永忠のことを言っているわけではなく、要するに今日本遺産で閑谷学校絡みで津田永忠、いろんな史跡があるわけです。後樂園もあるし、和気にもあるし、そういうのを連携していくというPRの材料にしたらどうですかということ。倉安川とか、津田永忠の関連史跡がいっぱいあるわけです、この近辺に。だから、そういうのも地図に落としていって、この機会、それで閑谷学校メインですということとしていくということをやったらどうですかという提案です。

○有吉市長室長 申しわけありません。世界遺産にちょっと特化したことを言ってしまいました。委員の提案を見させていただきまして検討してまいりたいと思います。

○掛谷委員 これは国宝で、閑谷学校そのものは国、その周りのところは県の管理ですね。ということは、備前市というのは基本的にはないわけです。世界遺産は無理だったんですが、持ち物としては管理、岡山県ですよ。今の看板とか横断幕、備前市がやる、それはいいんですけども、日本遺産になったのに、備前市は県に対して要望とか、県にこういうことはしてくださいとか、そういうことは言うべきだと、するしないはそれはいろいろあります。そういうことをされたのか、されていないのか。されていないなら、きちんとやはりそれを県のほうにも言って、岡山県の中で1つしかないわけですから、今のところ。それはどういうことになっておるのか、現状とこれからどうするのか、お聞きしたい。

○有吉市長室長 従来から世界遺産等の会議についても、岡山県の職員は必ず出てきて一緒に歩調を合わせてやっています。今回細かな具体的に何をしたというのは、ちょっと私は承知していませんが、のぼり等も早く立てていただいておりますし、そこら辺は私どもがすることと県と連携して一緒にやっていきたいと考えています。

○掛谷委員 市がやる分と県がやる分とすみ分けが要る。国もあるでしょう。日本遺産といたら国からお金が出ますから、当然。わかっています。だけど、県は一体何をしてくれるんですかというたらちょっと言い方が悪いですが、県の部分のところは一体何をやってくださるところが

あるのかというところをちゃんと備前市としてもアプローチするべきではないかということをお私
は言いたい。看板とかそんなのも。閑谷学校の近くになったら、県がやりましょうとかという
のもあっていいわけですね。備前市ばかりやっているわけだ、それは。そういうことを考えて
県にも言ったらどうですかと、言っていないならば。お金がない岡山県ですからそんなにたくさ
んしてくれません。ですが、そういうアプローチも全然してないのなら、ちょっとそれはおかし
いというよりはもったいないと、どうでしょうか、その辺は。

○有吉市長室長 先ほども申しましたように、私は承知していませんが、担当のほうでそうい
うことはお願いしていると思います。現にゴールデンウィーク等につきましても、岡山県は連日
行事等いろいろやっていただいています。そこにうちの職員も参加させていただいていますの
で、その辺は大丈夫と考えております。

○掛谷委員 商工会議所、岡山県とそういう連携というのが非常に大切なので、しっかりと連携
してもっといいものにしてやってください。

○田原主査 尾川委員、掛谷委員の話も含めて、要するに市の予算だが関連のところとよく協議
をして、県とタイアップすれば市の負担分は幾らでも、もっと大きないいものができるでしょ
うということだし、運動とすれば、市内の各団体とうまく、何も市が音頭をとらなくても、そこへ
補助金を出してもらって、もっといいものをつくるのか、その辺の工夫をしなければいけないの
じゃないですかという根本的なことをしっかり聞いて考えてほしいわけですね。言われたことに即答
するんじゃないしに、何をもちいて意見を言われとるのかということをよく考えてください。

次、予備費はよろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次、5ページ、起債はよろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○尾川委員 合併特例事業債、今まで10年になるんですけど、合併特例債というのはどういう
ものにどの程度使ってきて、起債の関係を全てあわせて一覧表でもつくってもらえると、教えて
もらえたらなああと、いかがでしょうか。

○田原主査 一覧表をもらいますか。そういう希望がありますが、いかがですか。

○河井財政課長 合併特例債だけでよろしいでしょうか。

○田原主査 市債も含めてそれじゃあお願いしましょうか。

○河井財政課長 相当量のボリュームになりますが。

○田原主査 恐らくどれぐらいのことが耐えられるのかということも含めてなので、主には合併
特例債、過疎債何とかというような形で、その他のことでもいいですし、狙いは耐えられるのか
どうか、これからの起債事業について我々がどうしたらいいかという判断にしたいということ
です。そういう趣旨ですので、本委員会まででできますか。

○河井財政課長 早速準備をしてみたいと思いますので、よろしくお願ひします。

○田原主査 よろしくお願ひします。

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

以上で、議案第82号の審査を終了します。

***** 報告第8号の審査 *****

次に、報告第8号専決処分（専決第12号平成26年度備前市一般会計補正予算（第10号））の承認を求めることについて中、総務産業分科会所管部分のうち、市長室・総合政策部関係の審査を行います。

○尾川委員 全体的な話で、改めてこれだけ書かれたら、こんだけの専決が今までであったのかと私もちょっと、昨年度のこの時期の補正予算を見てないわけですが、専決が多いような、一般質問もありましたが、前には決算審査のときに使っていない残りが出て結構議題になっていましたが、これだったらもう9月議会に出てくる26年度の決算にはこの数字は出てこないということになるわけですか。基本的なことを聞いて申しわけないですけど。

○河井財政課長 決算のときには、ここの補正予算でしていれば、予算現額が減っていますので、執行残額は少なく出ます。

○尾川委員 その執行残が、今までもどっちが経理上というか財政上正しいのかわからないけど、一つの基準で25年度はこうでしたと。こっちは執行残ばあマークして何でならというてしょうもねえ質問しよんかもわからんですが、今度はそういうのがゼロに近くなると思います。そういったときに、本当に財政状況というか決算の実態というか、何かわからないようにならないか、そんな懸念はないですか。ただ、使っていない残った金があるから、これから補正組んで使おうかという気持ちにはなりますよ、私ら個人的な財布を持つときに考えたらね。今実際これだけ使うたというのを、実際これだけ金が残っていると。ほんなら、これもっとあれに使うだろうかと思うたり、個人的には思いますけど。それじゃあちょっと、今までの財政のやり方と違ってきませんか。その辺担当者がどんな考えしているのかと思いますけど。

○河井財政課長 専決については、他市の状況も把握した中で大体議員皆様方から御指摘等をいただきながら、専決予算自体を縮小して廃止しているところが多いです。この3月末の専決予算については。近隣で残っているのは、瀬戸内市と備前市ともう一つ、3市ぐらいだったと思います。専決予算をまだ3月31日で行っているのが。ですから、本来あるべき形に戻していこうというもので、決算のときには1月時点での補正予算、最終2月定例会に計上させていただく補正予算ですね、そこで見込み切れなかったものにつきましては、執行残額として大きく出る可能性もなきにしもあらずでございます。

○尾川委員 事務が煩雑になることはないんですか。私はすぐ悪くとるわけじゃねえんですけど、何か要らん手間をかけて一遍で締めてしまえばいいものを2遍やる、3月末でやる、5月末にやるというのは、出納閉鎖してからやるようなことは二重になっていないんですか。

○河井財政課長 委員御指摘のような二重ということにはなりません。決算はあくまでも5月末で最終決算になりますので、ここはあくまでもこの3月31日で行っているのは補正予算であり

ますので、決算はまた別途行われますので、この専決予算が縮小できれば、逆に業務量の負担は減ります。

○尾川委員 業務量が減るといえるのはええけど、何か今までの流れがええというわけではないですが、執行残をごちゃごちゃ言われんでええわということで、かえって煩雑さが出てくるんじゃないかと思うて、それより正直にというか、実態、もともとこうでした、だけど実際こうだったというのが、途中でなくきちっと最後にしたらええんじゃないかという感じですが、やはり今の説明では、他の自治体もこういう方向になっていきよるといえることですか。

○河井財政課長 そうです。委員のおっしゃるとおり、他の自治体でもこの3月末で専決補正予算というものは中止、取りやめという方針で動かれています。ですから、本市もそういった形で専決補正予算、やむを得ない部分は発生するかもしれませんが、極力3月31日の専決補正予算についてはないような形で進めてまいりたいというふうに考えています。

○尾川委員 減っているだけでなくふえているのもある、これは。そこらを専決ですということ、減っているのはわかる、だけどふえるというたら、専決処理するのはおかしいと思いますが、その点はどんなんですか。

○河井財政課長 増額という専決予算も確かにございます、内容的には。歳入に関しても歳出に関してもございます。やむを得ず2月定例会以降に発生したものについて増額をさせていただいておる状態でございます。ですから、この専決補正予算を縮小するということになりますと、なかなか増額ということになりますと、その部分だけは逆にやむを得ない部分として専決補正予算をさせていただかなければならないという事態が発生するかもわかりません。

○尾川委員 そりゃ認識の違いやけどね。一般質問でもかなり、前から議員のほうからかなり専決のことについて、私もやはり議会軽視だと。ある意味、臨時議会でも開いてやっていくべきだと、1円でもやはりきちとした筋を通してやるべきだと思っています。全体的にそういうことを軽視して、どんどんどんどんふえても専決で行ってしまう、じゃあもう議会は要らないということになる、不要論になるわけです。だから、もっとお互いに、議員の立場も考えてもらわにゃいけんし、こっちも執行部を軽視しているわけではないけど、今臨時的な専決処分の、地方自治法に書いてあるとおりですけど、だけど努めて専決処分というのは排除していくという考え方でやはり執行部もそういうスタンスでやってほしいと思いますが、その点部長、どんなですか。

○藤原総合政策部長 専決処分につきましては、今財政課長が申し上げたように、特別な事情がない限りは、もう専決処分は行わないというスタンスで、今後臨んでいきたいと思っています。

○尾川委員 ぜひ、専決ということについては、そりゃいろいろ事由はあるし、今本当に動きは早いし、まして市長の動きも早いから余計にみんながついていけないというのはよくわかりますが、やはり議会もそれについていけないといけないわけです、どっちかというたら。だから、個人的にはその点で努めて専決処分を排除するというふうに今後もぜひお願いしたいと思います。

○川崎副主査 今の議論を聞いていて、最終的には決算で、5月締めだということでしょう。残念ながら、備前市は5月26日に始まりましたよね。それまでということになると、5月締めに

してのこれは専決でも何でもありませんよ、3月だったら。結局この3月締めですから、5月末までといえればあと2カ月あるわけですから、最終的には相当数字的にはまだ動くということでしょう。だったら、専決も何も無い、最終の5月締めだけでいいというのが本来の筋であり、それだけ印刷も実務も要らなくて済むと思います。なぜそういう問題意識になるのかといえば、減るのは執行残とか入札残とかなんとかと言いますが、地方交付税、特別交付税、これなんかもある程度推計できるのではないかと。配当交付金についても前年実績でできるかできないのかよくわかりませんが、大体の収入見込みでこれぐらいはふえるというのを3月定例のときの最終補正でやるとれば、あとは決算でやれば全然問題ないと思います、今の議論を聞いていて。事実、そういうことをやっている自治体がほとんどで、お隣瀬戸内市がやっているだけだという。こういう無駄をして、こういう審議に時間をとること自体、私はナンセンスとしか言いようがないですよ。わざわざ決算審査委員会も、これから締めたら9月ですね、そのときやれば十分であって、何で専決でこういうものを議会に出さなければならないのか、その理由さえ私には理解できませんけどいかがでしょうか。実際に交付税がいつ確定したのか、それから配当金がいつ確定したのか、入金があった日にちを教えてください、参考までに。

○河井財政課長 交付金につきましては、大体最終が3月です。

○川崎副主査 何日かと聞きよんですよ、口座に入ってきたのは。

○河井財政課長 日にちまでは把握できていませんが、3月に入金を受け付けられます。

○川崎副主査 議会終了後という意味ですね。

○河井財政課長 議会中だと思われまして。中から交付金によって振り込み日が違いますので、終了までかかっていると思いますが、専決予算については委員が今おっしゃられたとおりの内容です。基本的にこういった調整をやめて2月定例会に極力補正予算として見込めるような形を取り組んでいきたいという方針でございます。

○川崎副主査 交付金は議会中と言いましたが、特別交付税はいつですか。

○河井財政課長 特別交付税については、3月に決定を受けていますので、これも日付のほうはすぐ御回答できませんけど……。

○川崎副主査 3月議会には間に合っていないということですか。

○河井財政課長 はい。

○川崎副主査 金額が確定できる。

○河井財政課長 はい。

○川崎副主査 どちらであっても、毎年こういう専決でやっていて、予想はつかないならつかないで結構ですけど、減るのは常識的に、執行残ということでいつもしょうもない金額が全部出てくるので、それこそ最終の決算で済ませばいいということと、ただ尾川委員の意向を聞くと、やはりプラスになる部分については、3月の最終補正でこれぐらいはあるだろうと。それが外れたとしても全然問題ないじゃないですか、国のやることであり、配当割り交付金というたら私よく中身を知りませんが、これだけぐらいふえますと、やっていたら何でこういう3月締めという中

途半端なものを、意味ないでしょう、実際の出納閉鎖は5月31日でしょう、26年度の最終予算の締めというのは。やはりぜひ一般会計だけでも廃止してほしいし、特別会計も年に二、三回やってもらえばいいのではないかと、要らんことかもわかりません。ただ、一般会計についてもそういう煩雑さをなくすことが事務の合理化であり、経費の合理化になるわけですから、それで誰も文句を言う人はいないと思います。3月で大体の予想見込みさえつけていけば。どうなんですか。先輩がやっているかどうか知りませんが、慣習があるからやるというのは、全く経費の無駄遣いというのをわかってやりよんじゃないですか。いかがですか。

○河井財政課長 委員御指摘のとおりでございますので、そういった方向で取り組んでまいりますので、一般会計、それから特別会計も含めてそういった流れで進めていきたいと考えています。

○川崎副主査 財政課長の権限かどうかわかりませんが、廃止するということを確約できませんか。誰がこれを継続して、3月締めでこういう専決でやれということをする人はいないと思いますけど、市長以下。それぐらい意味のないことでしょう、中途半端で。きょう6月でしょう。本来5月締めで専決処分でやりましたというのならわかるけど、5月26日に始まるとるから、最終はもう確定しておりますよね。今実務整理して足し算、引き算やりよんでしょうけど。それで十分なんで。

○藤原総合政策部長 先ほども申し上げましたように、特別の事情がない限り専決は基本的には廃止ということで行きたいと思います。特別の事情というのが、選挙とか災害とか、そういった大きなものですね、そういったものがあつたときにはいたし方ない……。

○川崎副主査 そのときは臨時議会でしょう。

○藤原総合政策部長 議会を開く余裕があれば、臨時会ということになろうかと思いますが、選挙とか定例的なものなので、そういったところまで必要はないかなとは思いますが、専決処分はこれからできる限りしないという方向で行きたいと思いますので、議会の皆様方、御協力のほどよろしくお願いいたします。

○田原主査 特にあればお受けします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、報告第8号の審査を終わります。

以上で予算決算審査委員会総務産業分科会を閉会いたします。

午前11時15分 閉会